

【2月の気象】

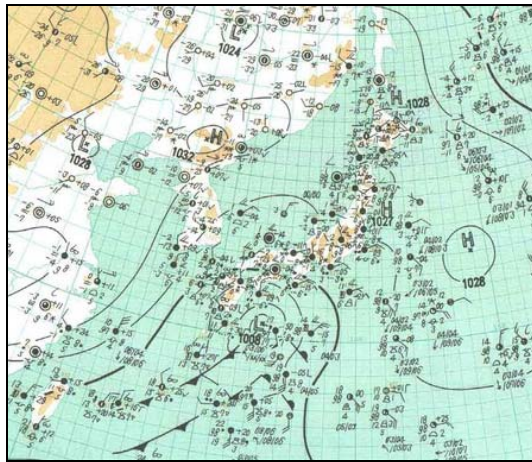
- ▷ 2月は、寒暖の差が大きく、天気変化の激しい月です。冬型の気圧配置が強まる場合は、北西の強風、大雪や低温に注意が必要です。
- ▷ 低気圧が日本海を発達しながら通過すると、暖かい南風が吹き、気温が上昇することがあります。立春から春分までの間に、広い範囲に初めて吹く南よりの暖かく強い風（おおむね風速10m/s以上）を観測すると、気象台は「春一番」を発表します。
- ▷ 日本の南岸を低気圧が通過すると、大雪となることがあります。この場合、湿った重い雪が降りやすく、雪が電線や樹木等に付着することを着雪といいます。これによって植林した苗木が被害を受けることもあり、愛媛県では過去にビニールハウスが多数倒壊する被害がありました。気象台では、24時間の降雪の深さが20cm以上となり、気温が-1~2℃の状態が続くと予想したときに「着雪注意報」を発表し、注意を呼びかけます。

【気象用語】「南岸低気圧」とは

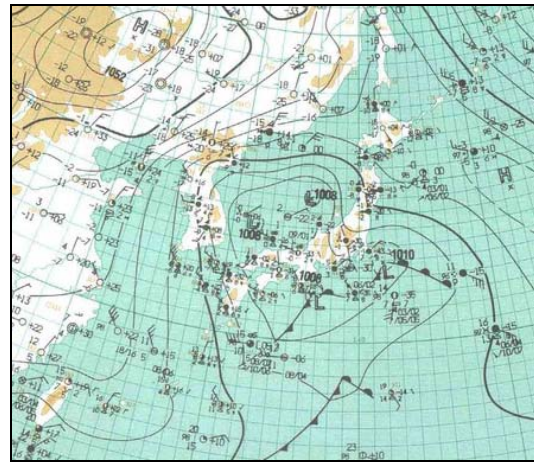
「南岸低気圧」とは、日本の南海上を主に東～北東に進む低気圧のことです。

2月から3月にかけて、南岸低気圧が四国沖を通る場合、低気圧へ吹き込む南からの湿った空気が冷され、東予から中予で大雪となり、南予の一部や島しょ部でも雪が積もることがあります。

松山における1953年からの統計によると、1984年1月31日の降雪の日合計14cmが1位、1987年2月3日の11cmが2位で、どちらも南岸低気圧によるものでした。なお、両日の最低気温は、前者が-0.6℃、後者が-1.9℃でした。



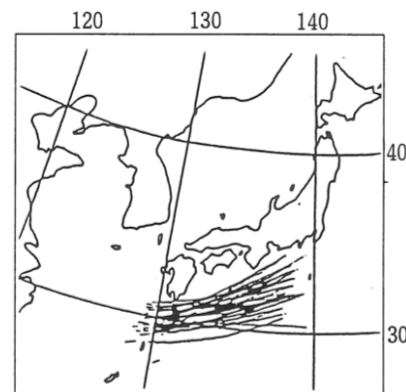
1984年1月31日9時の地上天気図



1987年2月2日21時の地上天気図

低気圧が九州の南海上の北緯29度と潮岬南海上の北緯31度を結ぶ線、九州の大隅半島南端と潮岬南海上の北緯33度を結ぶ線の間を通過する場合、県内では5cm以上の積雪となりやすいとの調査報告があります。このとき、低気圧が四国に接近するほど積雪が多くなり、東予山間部では積雪が20cmを超えることもあります。しかし、低気圧が近すぎると南予を中心に雨となります。

大雪が予想される場合、気象台は、大雪警報、注意報、気象情報により警戒や注意を呼びかけます。そのほか、着雪や低温、なだれの注意報など最新の気象情報を積極的に入手し、雪などによる災害の防止、軽減にお役立てください。



愛媛県で5cm以上の積雪を記録したときの南岸低気圧の移動経路(黒線)